秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー　あきた

第21号
２０１３年（平成２５年）７月６日発行

代表就任に当たって

秋田県教育カウンセラー協会
代表　濱田　眞

この度，秋田県教育カウンセラー協会の代表に就任することになりました。水戸谷先生の志を引き継ぎ，皆さんのお力をいただいて重責を全うしたいと願っております。よろしくお願いいたします。

さて，欧米における教師の役割は学習指導に限定されています。それに対して，日本の教師は教科担任，学級担任，部活担当を兼務しており，授業者・カウンセラー・コーチの三役をこなしています。まさに，「日本の近代化は学校に依存することによって成し遂げられた」と言っても過言ではありません。

欧米の研究者は，日本の教師の力量を非常に高く評価しています。家庭教育や社会教育の役割を引き受けつつ，世界トップクラスの学力を維持しているのは驚きだと言います。しかし，近年多発しているいじめ，自殺，体罰等の問題を考えると，それも限界に近づきつつあるように思われます。社会構造が欧米型に近づきつつあるからです。

それでは，どのような対応策があるでしょうか。欧米並みにカウンセラー，サイコロジストを活用すると共に，放課後の活動は社会教育が担う，という手はあります。しかし，そう簡単に「学校依存体質」が変わるとは思われません。

学校がこれまでと同様の役割を担いつつ，深刻化する教育課題に対処するには何が必要でしょうか。私は，教師が「成長保障に関わる高度な専門性」を身につける以外に方策はないと考えます。つまり，教育カウンセリングに関する専門性が求められているのです。

身銭を切って研修会に参加し，手弁当で運営に当たっておられる教育カウンセラー協会の皆さんの姿は尊いと思います。皆さんの努力が結実し，日本教育の新時代を切り開くことを心から願いつつ代表就任を決意しました。未熟者ですがよろしくお願いいたします。

この十年を振り返る

阿部　千春（秋田県教育ｶｳﾝｾﾗｰ協会事務局長）

協会本部から事務局長の役職を拝命してから十年が経ちます。振り返りますと，秋田で四年，函館に事務局を移して六年と，函館の方が長くなります。

私にとりまして教育カウンセリングに関する学びの本格的な始まりは，大学院を修了した翌年 2000 年のＳＧＥワークショップに参加させていただいた時といえます。その時は藤川章先生がリーダーで，内観のデモンストレーションは今でも心に焼きついています。三日間，國分両先生が終始参加者を温かく見守り，時に助言をくださいましたが，当時の私にとりましては衝撃的なことでありました。また，リレーション(感情交流)のある学びの集団の素晴らしさを実感することができました。それ以降，講座等に足繁く通い，教育カウンセリングの理論・技法とともに，援助者としてのあり方や自己のあり方，生き方などについても考えを深めることができました。

当時の学びが現在の自分の基盤をつくっているといえますし，当時出会った先生方からたくさんのことを give していただいたという思いがあります。それを研修会や事務局の仕事を通してお返しできればと思いつつ取り組んでいます。5 年後，10 年後には，少しは give できているといえる自分でありたいです。

協会が経営的に大変な時期がありましたが，國分両先生，片野智治先生，吉田隆江先生，中級試験のためにいらした理事の池場望先生，事務局の楠元奈津子さん，支部代表の水戸谷貞夫先生，会計長(当時)の島田牧子さんからいただいた，心から心配してくださる言葉や思いが，今でも心の中に温かさや有り難さ，心苦しさとともにあります。

この十年間で事務局の仕事を通してさまざまな経験を積ませていただきましたが，年を重ねるごとに役割と責任の重さに対する認識を新たにしています。今後，より成熟した団体となるように，また，より質の高い事業を展開できるように，努力し続けていきたいと思っています。引き続き，ご支援ご協力をいただけますよう，よろしくお願いいたします。

『成長の出発点を学生に』

小坂　信子（秋田県教育ｶｳﾝｾﾗｰ協会理事）

秋田県教育カウンセラー協会設立 10 周年，おめでとうございます。

私は，学生の指導場面で治療的カウンセリングではなく他の解決策はないかと模索していた時参加したのが秋田での第 1 回養成講座でした。その後も養成講座に参加し青年期学生の発達過程を現在の若者の現状から知ることで関わり方が見えてきたように感じ，さらに予防的関わりをすれば，看護学生自らが今の現状が分かり次に進めるステップ作りができると思えるようになりました。現在は構成的グループエンカウンター(SGE) を「援助的人間関係論」の授業に取り入れ，対人関係の構築が看護の基盤となることを強調しております。國分(1992)が「エクササイズを用いた作業や討議を行いながら人間として自分の生き方を検討する(思考，感情，行動を意識化する)」と述べております。学生が「心から感じたこと」を成長の出発点とし，自己理解から他者の理解・受容へと転換でき，他者への配慮ができる(看護ができる) ことに発展できればなと考えております。

私は看護が専門分野のため，協会への参加はいつもちょっとした緊張感があります。しかし，宿泊 SGE へ参加し「いくつになっても変化できる」ことを体験し，また自分が実践している SGE が自己流にならないように，また自己啓発のため参加させていただいております。最近「以前にもやったことがある」と授業感想に記載してくる学生もおり，教育カウンセラー協会活動の裾野が広がっていることを実感することがあります。協会理事として微力ではありますが今後ともよろしくお願いいたします。

引用文献　國分康孝編：構成的グループ・エンカウンター，誠信書房，1992

カウンセリング・トピックス

『カウンセリングに対して抱くイメージ』

秋田県教育カウンセラー協会理事　浅沼知一

普段の生活で，「カウンセリング」という言葉を耳にすることは少なくない。すでに日常語として市民権を得たような印象もあるが，改めて「カウンセリング」について数人で話し合うと，それに対して抱くイメージの違いに驚かされることもある。

まず，「超狭義」。カウンセリング＝来談者中心療法（ロジャーズ式の面接）… をイメージしている場合がある。カウンセラーとクライエントの1対1で，相手の話を受容的・共感的に傾聴することだけがカウンセリングである，と考える人達だ。わが国で最も普及し，相談活動に影響を与えたのが来談者中心療法であったので，「多数の中で良く知られた一技法」を「唯一」のように考えてしまった...ということなのだろう。

次の「狭義」は，1対1で，言語的コミュニケーションを中心に，各種心理療法の理論に基づき，その技法を用いて話し合いをすること … をイメージしているタイプである。前述の来談者中心療法をはじめ，精神分析・認知行動療法・ゲシュタルト療法など，専門的な心理的アプローチを行うことがカウンセリング...と考える人達もいる。

「中間」に位置するのが，相談や話し合い，意見交換などをカウンセリングと見なす一群であろう。商業広告で「カウンセリング化粧品」とか「カウンセリングを行って，あなたに最適の〇〇をご提案します」等の文言を目にすることがあるが，1対1かそれに準ずる少人数，言語的コミュニケーション，クライエントが有する問題を扱うという要素は，狭義と共通している。

「広義」になると，集団へのアプローチや，非言語的なコミュニケーション，或いはクライエントの問題と直結しない（＝間接的に役に立つ）エクササイズやワークを媒介にした交流も含んで考えることになる。上記の3タイプではカウンセリングと見なし難いグループアプローチだが，「広義」ではその範疇に入れることができよう。

「超広義」は，全ての人間関係の中にカウンセリングを見出そうとする姿勢 … であろうか。上位4タイプには必須だった「明確な目的」と「構造（枠。カウンセラーとクライエントの関係性，時間，場所etc.）」の有無を問わず，肯定的・援助的な人間関係を持とうとする試みを，カウンセリングとしてとらえている人も（少数だが）居る。

國分康孝先生の「カウンセリング」定義は，**「言語的および非言語的なコミュニケーションを通して，行動の変容を試みる人間関係」である。**

この定義をふまえて，いま一度，あなた自身の「カウンセリング」に対するイメージや定義を再検討してみてはいかがだろうか？

記念講演会講師　藤川 章先生　プロフィール

杉並区立天沼中学校 校長，東京教育カウンセラー協会 代表，日本教育カウンセリング学会常任理事。 平成21年度に「日本カウンセリング学会育てるカウンセリングー國分記念賞」を受賞されています。

藤川章先生は，教員時代には学級経営や学習指導に「育てるカウンセリング」を生かし，そして校長となった現在は，保護者・地域との連携を大事にした学校教育活動を展開していらっしゃいます。「保護者と教師が共に育つ学校づくり」「保護者・地域のふれあいから生まれる学校サポート」などについて書かれた「エンカウンターで保護者会が変わる〈中学校〉」をぜひご一読いただきたいと思います。

藤川章先生からは，穏やかなやさしさと温かさがじんわりと伝わってきます。また，教育に対する揺るぎない信念と熱い思いをお持ちの先生であり，それが周りからの厚い信頼を得ることにつながっているのだといえます。

このたび，秋田県教育カウンセラー協会設立10周年記念講演会講師に藤川章先生をお招きできたことに役員一同大変喜びを感じています。

〈ご著書の紹介〉

「エンカウンターで保護者会が変わる〈中学校〉－保護者と教師がともに育つエクササイズ集」(2009)
「育てるカウンセリングによる教室課題対応全書〈３〉非行・反社会的な問題行動」 (2003)
「エンカウンターで総合が変わる〈中学校編〉総合的な学習のアイディア集」(2000)
「学級担任のための育てるカウンセリング全書〈９〉育てるカウンセリングが学級を変える 中学校編」(1998)（以上，図書文化）

書　籍　紹　介

今回は本協会のためにご尽力いただきました水戸谷貞夫先生の著作です。誌面の都合上５編だけ紹介させていただきました。

amazonで入手できる，水戸谷貞夫先生の本

21 世紀の進路指導事典
ブレーン出版（2001/02 発売）

講座 進路指導 (1)
進路指導の理論
多賀出版（1983/12 発売）

進路指導の運営
（講座 進路指導）
多賀出版（1987/06 発売）

進路指導の技術〈2〉
(講座 進路指導)
多賀出版（1986/09 発売）

進路指導の実務 24 のポイント
〈進路指導主事編〉
多賀出版（1987/06 発売）

編・集・後・記

世の中が変わるのと同様に子どもの世界も激変する。子どもを取り巻く環境が変わり，子ども自身も変わっていく。教育の世界も徐々に変わってきているが，子どもの変化に対応できているのかどうかは疑問である。教育カウンセリングの世界を知ることで自分は変わったことがある。その内の一つは子ども自身と子どもを取り巻く環境に目を向けるようになったことである。学校を取り巻く環境や歴史の中に問題が内在する可能性があるからである。
今年で秋田教育カウンセラー協会は１０周年を迎える。変わっていく教育の世界で子どもを中心にすえて，本質を見つめながら勉強していくことが大切だと思う。そして，教育カウンセリングを学ぶ人たちが現場でリードしていけるようになることが子どもたちの幸せにつながるのではないかと思う。（Ｎ．Ｙ）